

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月2日～

先週は米国の雇用統計の発表の後、大きく乱高下し、週末の相場は円高、株安で終わっています。ドル/円はなんとか8月5日につけた安値の手前で持ちこたえましたが今週、安値トライの動きが出る可能性があります。

米国の雇用統計の結果は、失業率は前回の4.3%から少し改善されて4.2%でしたが非農業部門雇用者数が予想より悪く、先月発表分(7月分)も下方修正されました。

雇用統計以外の指標でも最近の米国の雇用情勢を示すものは悪いものが多く、労働市場に対する不安感が高まっています。

先週は週の後半にかけて円高が進行し、週足も陰線で終わっているため週明けもこの流れが続くかどうかポイントになりそうです。

今週は、米国ではインフレ指標の消費者物価指数と卸売物価指数が発表されます。

インフレ率が低下していれば、大幅利下げの予想が増え、ドル安円高の流れに拍車がかかるかもしれません。

今のところ米国の指標は景気後退を示すような状態ではなく、今月の利下げは0.25%になるとの予想が増えていますが0.5%の利下げの可能性もあります。

ということで、18日の政策金利発表まではマーケットは不安定な動きが続くかもしれません。

先週も雇用統計の発表後3時間程度の時間で2円程度の乱高下が起っています。

わずかな時間でも1円以上動くことを想定して、レバレッジが高くなりすぎないようにトレードしていきたいです。

流れが円高トライになってきているため、流れに逆らわないポジションになっているか慎重にリスク管理をしていきたいです。

そして、欧州でも今週は金融政策の発表があります。

こちらも利下げ予想が多く、利下げとなればユーロには逆風となります。

ということで、ユーロ/円も下落リスクが高まっているため注意が必要です。

先週はカナダも利下げし、クロス円もファンダメンタル的に見ても円高が進む可能性が高まっています。

また、米国株も日本株も8月中旬からの上昇トレンドから先週は下落トレンドに転換したように見えるため株の下げが止まるかどうか重要です。

米国のテック企業が売られる展開になってきているためNYダウだけでなく、ナスダックや日経平均の動きも見ておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週のドル/円は週の初めにつけた147.2円あたりを天井に週の後半にかけて下がってきて、雇用統計発表後に141.75円あたりの安値をつけて、142円台前半でマーケットは終わっています。8月5日の安値が141.6円あたりなので、この安値を割り込む動きが出ると急落する可能性があります。

ここを割り込んだ場合は、昨年クリスマスあたりの安値の140.2円あたりが下値のメドとなります。下げ止まらずに140円も割り込むと円高が大きく進むリスクが高まり注意がいらいます。

上値は144円あたりに抵抗があるので、まずはここを超えることができるかどうかです。

144円の抵抗を超えてくると円高リスクは少し落ち着き、145円あたりまで値を戻す可能性があります。

今週は140-145円程度のレンジを意識しながら取引したいです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は大きく下げています。

週足で大きめの陰線が出ているペアも多く、まだ下げ止まるかどうかわからないので、買いは下げ止まるまで見送りがよさそうです。

南アフリカランドなどの高金利通貨も株安やドル/円の下落に連動して下がることが多いため買いたい場合は、しっかりと底打ちを確認して、安いところだけ狙っていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4-6月期GDP(改定値)、7月貿易収支などがあります。

米国では8月消費者物価指数、8月卸売物価指数、前週分新規失業保険申請件数、8月月次財政収支、9月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏でECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見、7月鉱工業生産、ドイツで8月消費者物価指数などがあります。

ほかには、中国で8月貿易収支、英国で7月GDPの発表などがあります